

「草丈長め、茎数多め」

1. 水稻の生育状況（あきたこまち）

現在のあきたこまちの葉齢から見た生育は平年並みとなっております。草丈、茎数については前回同様、平年を上回っており、一部では最高分けつ期を過ぎているほ場も見受けられます。葉色値においては平年並となっておりますが、他の生育指数(草丈、茎数)が大きいため、出穂後も上位節間が伸長し易いあきたこまちなどは葉色が急激低下した圃場以外は幼穂形成期追肥を控えてください。

早生品種の幼穂形成期は間もなく迎えるものと予想されます。中干しを終え、圃場が乾燥している場合は、数日間湛水状態を保ち根域の保護に努めてください。

水稻定点調査圃の生育状況(7月6日) ※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	57.2	54.0	458	426	10.2	10.2	44.2	44.8
(慣行)	56.3		432		10.1		45.6	
(側条へ-ス等)	57.6		469		10.3		43.6	
前年比	93 %		117 %		-0.1 葉		96 %	
平年比	106 %		107 %		+-0.0 葉		99 %	
たつこもち	60.1	56.6	439	432	9.9	10.2	46.6	45.5
きぬのはだ	58.4	50.9	519	515	10.4	10.6	46.1	41.8
ときめきもち	54.9	51.2	516	476	10.0	10.2	44.2	44.2
サキホコレ	54.9	56.3	506	478	10.1	10.5	42.3	45.1

2. 葉齢・幼穂長等からの出穂期予想

品 種 名	幼穂形成期	減数分裂盛期	出穂期予想	
	出穂前21日	出穂前10日	本年	平年
たつこもち	7月9日	7月20日	7月30日	7月29日
あきたこまち	7月12日	7月23日	8月3日	8月3日
きぬのはだ	7月18日	7月29日	8月9日	8月8日
ときめきもち	7月18日	7月29日	8月9日	8月8日

※上記の幼穂形成期と減数分裂期予想日は一般圃場(ヘドロ地)を指しておりますので、砂地圃場では3日程度早くなる見込みです。

《幼穂長と出穂前日数並びに低温に対する強弱》

幼穂長	出穂前日数	低温に対する強弱
2 mm	21日(幼穂形成期)	やや弱い
7 cm	13日(減数分裂始期)	最も弱い
15 cm	10日(減数分裂盛期)	

※主稈を抜き、幼穂長を測定して出穂前日数の判断をしてください。

裏面あり

3. 今後の技術対応

1) 倒伏対策 (あきたこまち；7月12日～21日頃が散布適期)

過剰生育等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で対応してください。

- 倒伏軽減剤：ロミカ粒剤・1成分 [出穂前25～10日 散布量2～3kg/10a、2,816円/袋]
[3日間湛水状態] 畦廻りスポット処理可能

2) 穂肥

本年の生育は、前述のとおりとなっておりますが、各自圃場の生育量・幼穂長等を確認のうえ、下表を参考に穂肥の目安としてください。

追肥の目安 (あきたこまち：11葉期、 m^2 当り目標茎数 420～450本位) [単位；kg/10a]

幼穂形成期(11葉期)頃の生育		幼穂形成期追肥	減数分裂期追肥
草丈(cm)	葉色(SPAD)		
60以下	薄い(40以下)	1.0	1.0～1.5
60程度	色ムラがある	ムラ直し	1.0
60～65	普通(40～42)	追肥無し	2～3日早めに1.0
65以上	濃い(42～45)	追肥無し	追肥無し～1.0
	濃い(45以上)	追肥無し	

※11葉期の目標生育量指数；草丈× m^2 茎数 = 25,000～28,000程度

3) 病虫害防除

① 葉いもち病

今後の天候にもよりますが各自ほ場を確認のうえ、箱剤等で予防をしていない場合は、つぎの薬剤で防除に努めてください。

- コラトップ1 κ 粒剤12・1成分 [出穂5日前まで 散布量1kg/10a、2,596円/袋]
…[3日間湛水状態を保つ]

② 稲こうじ病

7月中下旬の低温・多湿条件で多く発生しますので心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。特に前年発生した圃場については防除に努めてください。

- Zボルドー粉剤DL・1成分 [出穂10日前まで 散布量3kg/10a、1,122円/袋]
…あきたこまち：7月13日～23日頃が散布の目安

- モンガリット1 κ 粒剤・1成分 [収穫45日前まで 散布量1kg/10a、3,256円/袋]
…「紋枯病・稲こうじ病同時防除」：[3日間湛水状態を保つ]

③ 紋枯病

過剰生育の圃場(特に畦畔廻等)については、高温下での発生が懸念されますので、心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。

- モンガリット1 κ 粒剤・1成分 [収穫45日前まで 散布量1kg/10a]
…[3日間湛水状態を保つ] 畦廻りスポット処理可能

④ 斑点米カメムシ類 「発生早い」「発生量やや多い」予報

ヒエ、ホタルイが残草している圃場は、それら雑草の穂に産卵し圃場内に定着するため、早めに除草剤または手取りで対応をしてください。

※「ばか苗病」の散見される圃場は、見つけしだい抜取りをよろしく願います。
※ 農薬の使用に当たっては使用法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。